

# 国際貢献学部が誕生（設置構想中） 世界が待つ知的チェンジメーカーを育成

京都外国語大学

Kyoto University of Foreign Studies

## 建学の精神を 時代に合わせて体現

京都外国語大学の教育のベースにあり、かつ一連の改革の指針となっているのが、「言語を通して世界の平和を」という建学の精神だ。松田武学長は次のように語る。

「本学が設立された1947年と現在とは、時代的背景も国際情勢も大きく異なっており、その間にさまざまな社会的変化も起きています。当然、言語と平和が指し示すものも変わってくるでしょうし、そうあるべきだと考えています。つまり、私たちには、この建学の精神の中身を常に問い直し、時代のニーズに合ったものに作り直していくことが求められているのです」

今、同大学が推し進めているのは、

「言語Ⅱ外国語学習」「平和Ⅱ社会科学の統合的探究」とする考え方を土台にしたグローバル人材育成だ。そして、これを象徴するのが、2018年4月の新設を計画している「国際貢献学部」である。現在の外国語学部国際教養学科を発展させて、新たに学部を設置する。「グローバルスタディーズ学科」と、「グローバル観光学科」の2学科が設置される予定。

## 地球規模での活躍をめざす グローバルスタディーズ学科

国際貢献というと、国際機関やNGOでの活動などがイメージされるが、同大学では、「国際貢献学」を次のように、より広く定義している。

世界で起きている現象を、国民

家の枠組みを越えグローバルな視点から柔軟かつ多面的にとらえ、他者の意向を尊重しつつ対等な立場で意思疎通できる能力を養うこと。学際的な学びを通して得られる「学問知」と実践を通して得られる「経験知」を統合する能力を培うこと。社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらす能力を培うこと。

「グローバル化の進展にともない、ヒト・モノ・カネが自由に国境を越えて私たちの生活に影響を及ぼしている現在は、ビジネスにおいても新しい課題が次々に生まれてきます。国際貢献学によって養われる力は、狭義の国際貢献・国際協力にとどまるものではなく、国内外で課題解決に取り組みすべての人に求められる力です。語学に加え、社会科学の技法

も身に付けることで、世界が求める知的チェンジメーカーを育てていきたいと考えています」

これまでの同大学は、語学や文化を中心とした人文科学を教育の軸としていたが、そこに、政治学、経済学、経営学などの社会科学の要素を



世界のコミュニティで実際に取り組み挑戦する「コミュニティエンゲージメント」。貴重な海外体験が学びの原動力となる。

国際観光文化都市である京都を舞台に、外国語教育を軸にしたグローバル人材育成に取り組む京都外国語大学。2018年4月「国際貢献学部」(仮称)の新設を計画(設置構想中)。教育内容や育成する人材像などの構想をレポートする。





学園創立70周年の記念事業として建設中の新4号館。外国語自律学習支援室(NINJA)、ラーニングcommons、カフェラウンジなどの施設を備え、新しい国際交流および総合的な学修の重要拠点と位置づけられる(2017年春竣工予定)。

融合しているのが新学部教育の特色の一つといえる。

そして、これらのスキルや知識を  
実社会で使えるものにするために、  
もう一つ重要な要素となるのが、地域  
での実践活動である「コミュニティエ  
ンゲージメント」(詳細は後述)だ。

グローバルスタディーズ学科の大き  
な特色は、英語で専門科目を学ぶ  
こと。例えば、政治学や経済学など  
の科目も英語で学ぶことで、地球規  
模の課題解決につながる幅広い社  
会科学系の知識や技法を身に付け  
るとともに、海外の大学で学んでい  
るのに近い語学運用能力を修得す  
ることが可能だ。また、留学生も積  
極的に受け入れ、日常的に英語でコ  
ミュニケーションする環境を作る。

さらに、グローバルスタディーズ学  
科では、日本語と英語を組み合わせ

た授業でも、すべて英語だけの授業  
でも卒業することができる。

### 「観光」を「多文化間交流」と とらえるグローバル観光学科

グローバル観光学科は、もちろん  
「観光」がキーワード。しかし、同学  
科では、この「観光」の概念もより広  
義にとらえている。

「今や観光の概念は大きく広がっ  
てきています。フードツーリズム、ヘル  
スツーリズムなどの体験型・交流型  
の観光に象徴されるように、観光は  
まさに、多文化間交流の機会。さ  
まざまな出会いや発見が生まれるコ  
ミュニケーションの場であり、産業と  
しての可能性は急速に拡大してい  
ます」

その意味で、狭義の観光産業以外  
の分野でも、「多文化間交流」として  
の観光について、グローバルな視点か  
ら体系的に理解している人材が必  
要なのだ。

そのため、グローバル観光学科では、  
観光学、統計学、政策科学、環境学、  
経営学、組織理論などを柱とした  
教育を提供。観光に新たな価値を  
創出できる人材を育てていく。

なお、グローバル観光学科も留学  
生を受け入れるが、こちらは、専門  
科目の授業は日本語で行う予定だ。

### 国内外で本物の問題解決 「コミュニティエンゲージメント」

そして、国際貢献学部の両学科に  
おいて、人文科学と社会科学が融合  
した学びを経験の面から血肉化する  
のが、「コミュニティエンゲージメン  
ト(地域社会との連携・協働)」であ  
る。実際にコミュニティに入り、教室  
で学んだ知識を活かしながら、地域  
の人たちと共に地域課題の解決に  
取り組む。グローバル観光学科では、  
京都という地域性を活かし、国内で  
も行うが、グローバルスタディーズ  
科では欧米、アジアにわたる海外で  
行うことも構想している。

「留学とは異なり、例えば現地の

福祉施設などで活動することによ  
り、学生はキャンパスの中だけでは得  
られない大きなものを感じとり、成  
長できるはず。語学+αとし  
ての実践ではなく、社会や地域のた  
めに何かをしたい。そのために語学  
を修得しなければ」というスタンス  
で取り組んでほしいですね」

海外で実施されるプログラムは学  
生にとってハードルが高い挑戦になる  
だろう。だからこそ、その経験は学生  
に強烈な刺激を与えることになる。  
一連の教育を通して京都外国語  
大学国際貢献学部が育てる知的  
チェンジメーカーは、鋭い洞察力と行  
動力をもって、世界の多様な課題に  
果敢に挑戦するのである。

### Information

## 京都外国語大学



1947年創設。建学の精神は「言語を通して世界の平和を」。外国語学部には、英米語学科、スペイン語学科、フランス語学科、ドイツ語学科、ブラジルポルトガル語学科、中国語学科、日本語学科、イタリア語学科、国際教養学科を設置。少人数環境による実践型授業で「使える語学力」を養う。専攻言語以外に第2、第3外国語として、19言語から選択できる多言語に挑戦できることも特色である。

#### ● DATA

〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6

TEL 075-322-6035 (入試センター)

URL <http://www.kufs.ac.jp/>